

平成20年度文化財総合的把握モデル事業 韮崎市

歴史文化基本構想等策定
(地域を見直し、地域らしさを再認識して、まちづくりへ)

↓
歴史まちづくり法への展開へ

市内の主な計画

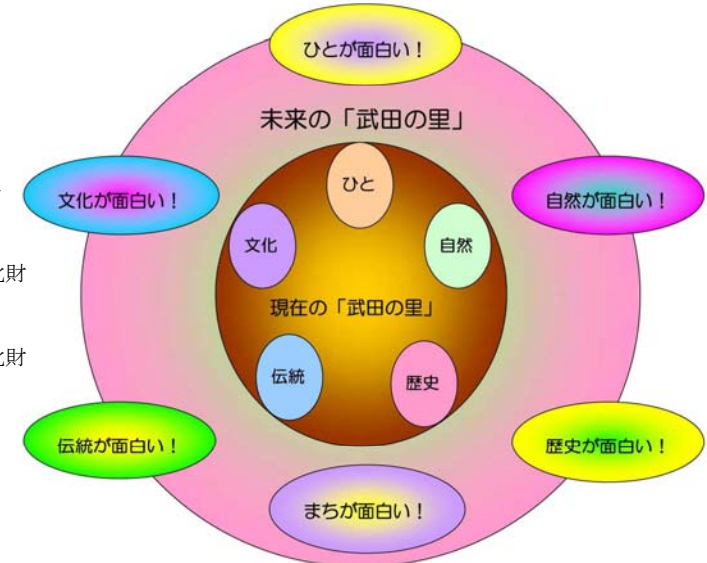
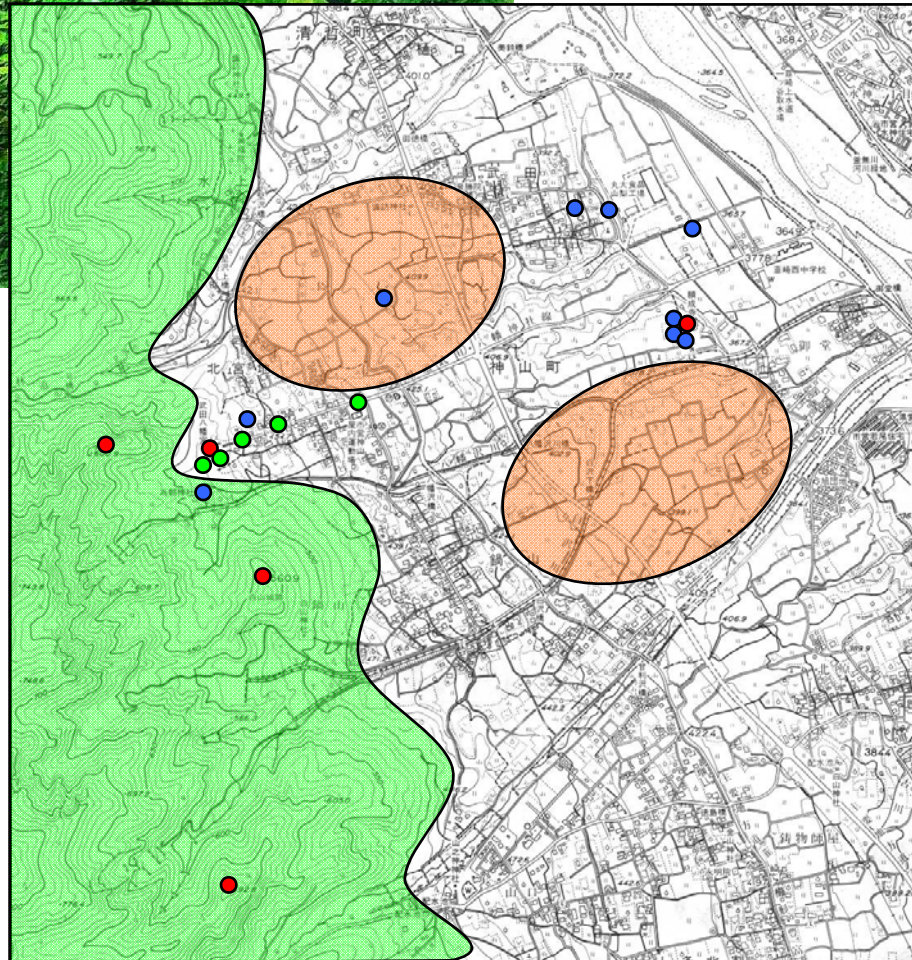
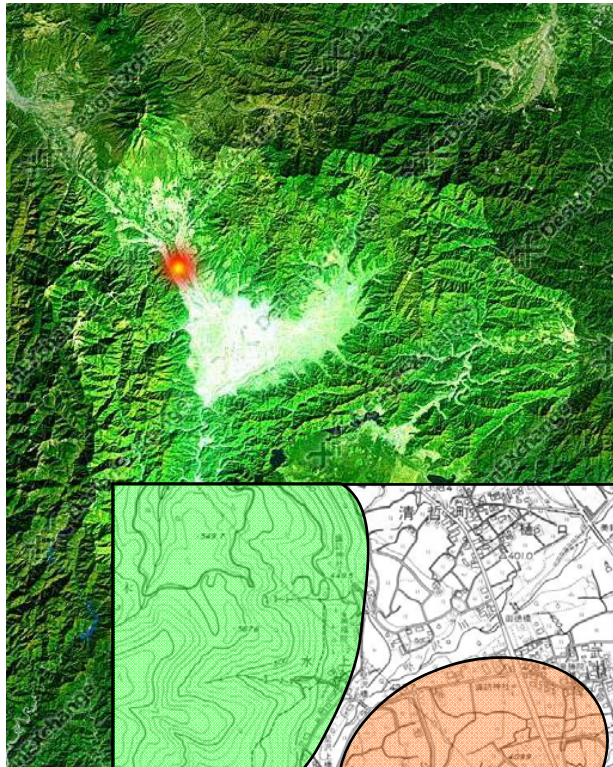
市全体: 第6次長期総合計画

建設課: 景観計画策定中(市域全体)

農林課: 農山漁村地域力発掘支援モデル事業
(穂坂地域)

(1) 韮崎市の面積 14,373ha

(2) 韮崎市の人口 約33,000人



平成20年度取り組み概要

(1)業務の実施日程

項 目	実 施 期 間											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①歴史文化基本構想等策定委員会開催								○				
②歴史文化基本構想等策定趣旨等地元説明会											○	
③文化財の現況把握等の調査												
a. 古文書等の調査											○	○
b. 神社祭礼に関わる民俗調査									○	○	○	○
c. 水田景観構成要素等調査											○	○
d. 既存研究等調査										○	○	○

(2)業務の実績の説明

①歴史文化基本構想等策定委員会等の開催
 11月に歴史文化基本構想策定委員会を開催し、事務局から現在把握されている文化財の状況報告し、調査対象とする文化財類型・調査方法の検討した。
 学識経験者にあたる各委員と調査方法等に関する協議を個別に開催し、調査方針等を検討し、実行に移した。

②歴史文化基本構想等策定趣旨の地元説明会
 2月に地元説明会を開催した。歴史文化基本構想等趣旨説明を及び文化財調査への協力要請をおこなった。

③文化財の現況把握等の調査

a. 古文書等の調査	神山地域の古文書所有者へその閲覧と整理の実施を依頼した。承諾されたK家について古文書目録作りを実施した。 民俗資料館等に収蔵されている古文書・古写真の目録作り等を実施した。
b. 神社祭礼に関わる民俗調査	菰崎の民俗に関する基礎的な文献の調査及び神山地域で開催されている「天神講」「初日の出参り」等の調査を実施した。
c. 水田景観構成要素等調査	神山町北宮地区及び武田地区の水田景観の構成要素(地名・地割り・用水等)の開取り調査等を含めた現況調査の実施。 調査実施に当たっては、地元大学関係者が主体となって実施した。
d. 既存研究等調査	武田信義、武田八幡宮や徳島堰などをはじめとする文化財の既存の研究調査や一般書籍の一覧表作成及び必要部分の複写等を実施した。



地元での説明会

既存の取り組みとの相違点

- 昭和40年代後半から50年代前半の『葦崎市誌』編纂以降、悉皆調査を実施していない。
- 特定の文化財に対する調査において関連する文化財の調査を実施してきた。
Ex) 白山城跡⇒白山城跡を中心としながら、城下地域の民俗調査等を実施。
⇒テーマ・ストーリー的なものから切り離し、パラレルに文化財を見直す。
⇒平成21年度へ

苦勞した・している点

- 庁内の体制
「文化財行政＝保護」という思考から、「文化財行政＝保護・活用」という思考へのシフト
- 市民との対話
「モデル事業に選ばれた＝文化財指定＝規制」という思考
⇒委員と大学生による土地利用等の現地調査など
⇒聞き取りなどによる対話の中で協同でまちを見つめているということを醸成・・・
⇒平成21年度へ

委員からの指摘事項

- 「対象地域を見る」だけではなく、「対象地域から見た」歴史・自然・文化的景観についても視野に入れて、今後の構想策定・活用計画策定の取り組むべきである。
- 「歴史文化基本構想・活用計画」の実現には、景観計画等の都市計画とのかかわりが深いことから、連携を密にすべきである。
- 文化財群をある特定の歴史的な時間で捉えるのか、積み重なった状況として捉えていくのか、今後の課題となると考えられる。
- 「ワークショップ」・「モデル事業」をはじめとする用語は分かりにくく、誤って伝わりやすいのではないか。